

2018年5月10日

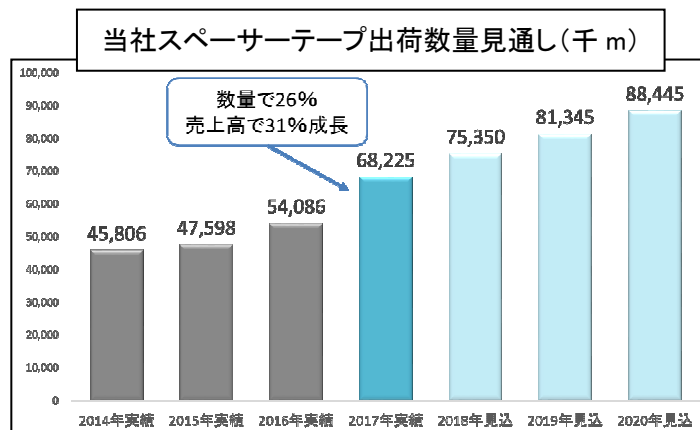
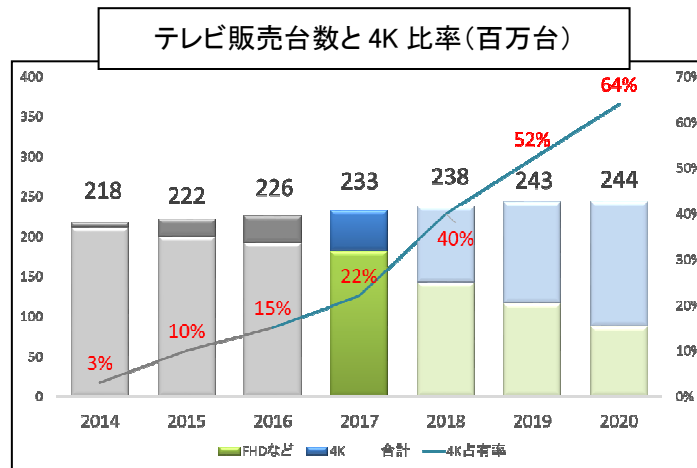
4Kテレビ普及に伴い半導体資材事業の生産能力を20%増強致します。

4Kテレビの場合、従来のFHDに対し、ドライバーICの数で2倍、当社スペーサーテープにおいては2.7倍の使用量になります。現在、テレビの販売台数は世界市場で年率約3%の成長を続けておりますが、4Kテレビの普及率は2017年で22%となりました。(当社調べ、下図参照)

当社の2018年3月期の半導体資材事業の売上高は数量で26%、金額で31%と大きく伸張しました。今後は更なる4Kテレビの比率拡大、併せて、2011年特需(地デジへの切替)の際に6,000万台近く、販売されたテレビの買い換え需要や消費増税前並びに2020年の東京オリンピック開催等、国内需要も喚起されると考えております。

このような中、当社は滋賀本社工場を日本・台湾顧客向け、韓国子会社(アテクト코리아)を最大マーケットである韓国顧客向けとし、現在保有の全生産ラインのタクトアップ、稼働率向上、歩留まり改善、これまで進めてきたIoTを駆使し、投資レス、人員補強なしでグループ全体の生産能力を20%向上させます。

当社は世界No.1のスペーサーテープメーカーとして、全世界の液晶テレビや今後、普及が見込まれる有機ELテレビ(4K以上にICの搭載量が大幅に増加)、2017年より、当社スペーサーテープの採用が始まったスマートフォン向けなどへの対応も含め、盤石な供給体制を構築して参ります。



以上